

第 1 回市民生活専門委員会での主な意見

(コミュニティ)

- 若者と隣組に背を向けては、地域の活性化はなく、地域住民からもそうした意識を持ってもらうことが大切ではないか。
- 若者世帯が隣組の会費を納入しないという課題がある。
- アパート世帯をはじめ住民の地域への帰属意識が向上することで、防犯など多方面においてプラスになると思う。
- 働き盛りの方々が生涯学習などに参加することで、退職後、まちに帰ってきやすくなるという面もあり、そうした推進も必要ではないか。

(コミセン化関連)

- 地区公民館のコミセン化は、財政的な面では良いことかもしれないが、実際は温度差があり、制度等に問題があるのではないか。
- これまでの区長は、市長から辞令を受け、地域のために公益の精神でがんばってきた。地域における区長会組織体制を壊さないように、地域コミュニティーセンター構想における体制作りをお願いしたい。
- 総合交付金化については、うまくいっているところ、うまくいっていないところの話しを伺いながら、対応していけばいいのではないか。
- 区長になりたいと志願できるように、報酬も含め魅力的な位置付けがあれば人不足も解決すると思われるので対応をお願いしたい。

(空き家)

- 空き家にキツネやタヌキが住んでいるとの情報があるので、地域の美化・環境保全について指導いただきたい。
- 空家を借りたいという人がいても家主の方の持ち物があつて住みたくないと思われ断られる場合があるが、家主の方へどのように見ていただいているのか教えてほしい。

(防災・防犯対策)

- 消防団と集落の自主防災等が一つになって総合訓練の実施をしていただきたい。
- それぞれの地域で、それぞれの地域に合った防災対策、防災訓練を考えて訓練を重ねていき、災害に対応していくべき。
- 学区ごとに防災資機材を共有する場合、そこに重点的に防災グッズを設置していくためにも、学区ごとに自主防災組織を作り、消防と連携していくことがいいと思われる。
- 防災協定先については、交通網を念頭に置いた放射線状の地域と結び、お互いに助け合うことが必要。
- 地域の防災・防犯力の強化について、子どもへの様々な交通安全指導が交通事故の半減につながっているように、小中学生に対し善悪・規範の教育を推進することが効果

的ではないか。

- 防災無線について、感度が良くないのだが、改善の計画はあるか。改善されることを期待する。

（消防関連）

- 消火ホースの老朽化が進み、破れて使えないものもあるのに、予算がなく更新できない状況にある。
- 消防団OBだけでは消防協力隊の体制が作れないので、定年になった人達や青年がやりたいと声をあげてくれた場合は、それを認めていただくような体制を作っていただきたい。

（救急体制）

- 山形市で救急車が来ず大学生が死亡するということがあったが、本市の救急体制は大丈夫か不安である。

（災害対応関連）

- 避難場所の選定について、現在の鼠ヶ関はほとんどが浸水区域で、高所への移動は時間がかかったり、危険箇所を通らなければならない、あるいは高齢者には負担が大きいなどの課題がある。
- 鼠ヶ関に高速道路のインターが出来た場合、インターの場所に避難場所を作っていただきたい。
- 大雨の際の土嚢の置き場所が事前にわかれば自分たちで対応できる部分もあるのではないかな。

（中山間対策）

- 「いろどり」という映画では山間部でも仕事や収入があればそこにUターンして来たり、十分住めるということを表している。中山間地の重点課題として、経済的な仕事対策を重点的に先行してほしい。

（高齢者支援）

- 高齢者の視点に立った避難拠点、避難訓練、熱中症対策が必要。
- 山村集落では交通手段がないため高齢になっても免許を返納できないという実態があり、交通網の整備や買物用の車が行くなどの対応が必要である。

（ごみ対策）

- ごみ対策推進員は、高齢者ではなく若手がやるという方向性を作っていったらどうか。

（漂着物対策）

- 海岸に漂着した萱類・海藻類の処分について対応をしてほしい。

（エネルギー関連）

- ごみ資源の関係で、樹木関係のものを効果をシュミレーションしながら、燃料化してはどうか。
- 鶴岡の多様な資源を生かしてエネルギーを作り出す「創エネ」という視点で様々な施策を考えることが必要で、それはそのまま省エネにつながる。
- 薪ストーブの導入促進について、本市は森林の多い地域であり、エネルギー利用の面からも熱利用は効率的であり、これからも積極的に進めていただきたい。

（市職員の活用）

- 鶴岡市の地区担当職員の配置は非常に良い施策であるが、市役所職員OBの活用についても多方面で行っていったらどうか。